

「結婚等に関する県民意識調査」の結果について【概要版】

アンケート調査

1 趣旨

結婚・出産に関する意識調査を実施することにより、未婚化・晩婚化及び少子化に対する施策展開の基礎資料とする。

2 調査対象

- (1) 年代等 富山県在住の20代、30代の男女
- (2) 対象数 2,000人
- (3) 調査期間 平成29年11月1日(水)～平成30年1月9日(火)
- (4) 回収数 467(郵送319、Web148) ※回収率：23.4%(前回(H23)26.0%)
- (5) 有効回答数 463(既婚218、未婚245/男性159、女性304)

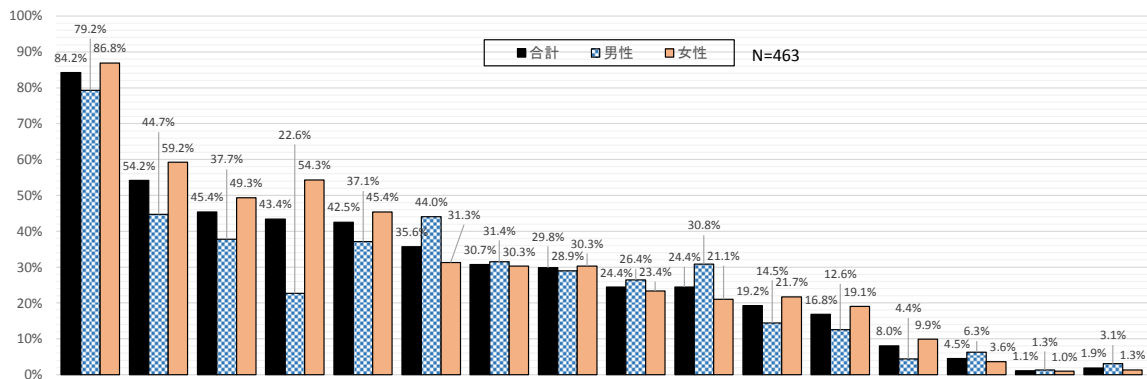
3 結果

(1) 将来結婚したいか(未婚者のみ)

結婚したい 73.0%

内訳	○すぐにでも結婚したい	<u>13.7%</u>
	○2～3年以内に結婚したい	<u>24.2%</u>
	○いずれは結婚したい	<u>35.1%</u>
	○結婚するつもりはない	7.8%
	○わからない	17.2%

(2) 結婚相手に求める条件



	性格	自分と共通の価値観	恋愛感情	経済力	健康	容姿	年齢	対自分の理解	趣味	家事能力	親の同意	職種	学歴	同居の親との関係	いめ結婚条件手はな求	その他
全体	84.2%	54.2%	45.4%	43.4%	42.5%	35.6%	30.7%	29.8%	24.4%	24.4%	19.2%	16.8%	8.0%	4.5%	1.1%	1.9%
前回(H23)	88.7%	54.0%	51.0%	40.3%	51.0%	32.8%	20.6%	26.1%	23.5%	22.7%	21.1%	15.8%	6.3%	5.5%	0.8%	3.6%

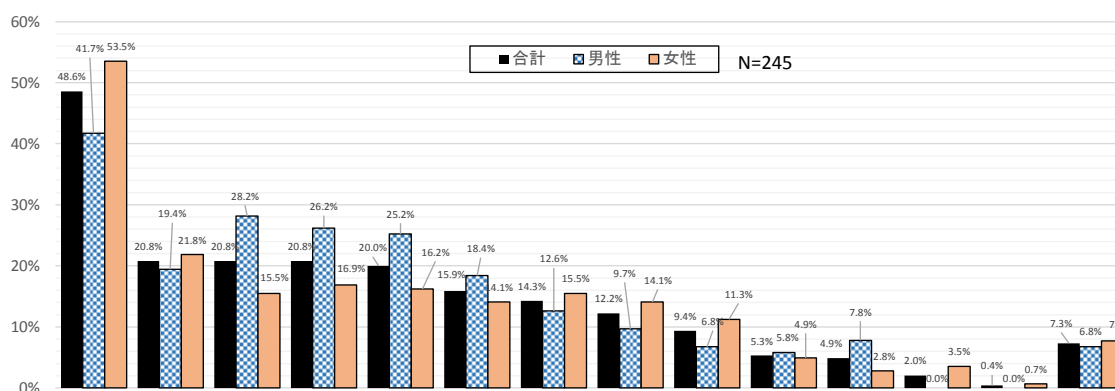
全体では、「性格」が84.2%と最も高く、次いで「自分と共通の価値観」が54.2%となった。

男女間で差異が大きいのは、「経済力」で男性22.6%に対し女性54.3%と女性が31.7ポイント上回っている。「自分と共通の価値観」でも男性44.7%に対し女性59.2%と女性が14.5

ポイント高い。また「恋愛感情」で男性 37.7%に対し女性 49.3%と 11.6 ポイント上回る結果となった。

一方、男性が女性を大きく上回ったのは「容姿」で、男性 44.0%に対し女性 31.3%と、12.7 ポイント上回っている。

(3) 結婚していない理由（未婚者のみ）



	わ 適 当 な 相 手 に め ぐ り 会 わ な い	く 自 由 や 気 楽 さ を 失 いた くない	な 異 性 と う ま く つ き あ え ない	い 家 庭 を 持 つ 経 済 力 が な い	結 婚 資 金 が 足 り な い	い 趣 味 や 娯 楽 を 楽 し み た い	必 要 性 を 感 じ な い	ま だ 若 い か ら	仕 事 が 忙 し さ ぎ る か ら	み た い （ 学 業 ） に 打 ち 込 みたい	結 婚 す る も つ り が な い	雇 用 が 安 定 し な い	親 や 周 圍 が 同 意 し な い	住 宅 の め ど が 立 た な い	そ の 他
全体	48.6%	20.8%	20.8%	20.8%	20.0%	15.9%	14.3%	12.2%	9.4%	5.3%	4.9%	2.0%	0.4%	7.3%	
前回(H23)	52.0%	22.5%	11.3%	33.8%	14.7%	9.8%	15.7%	6.9%	12.7%	-	-	3.9%	3.9%	8.8%	

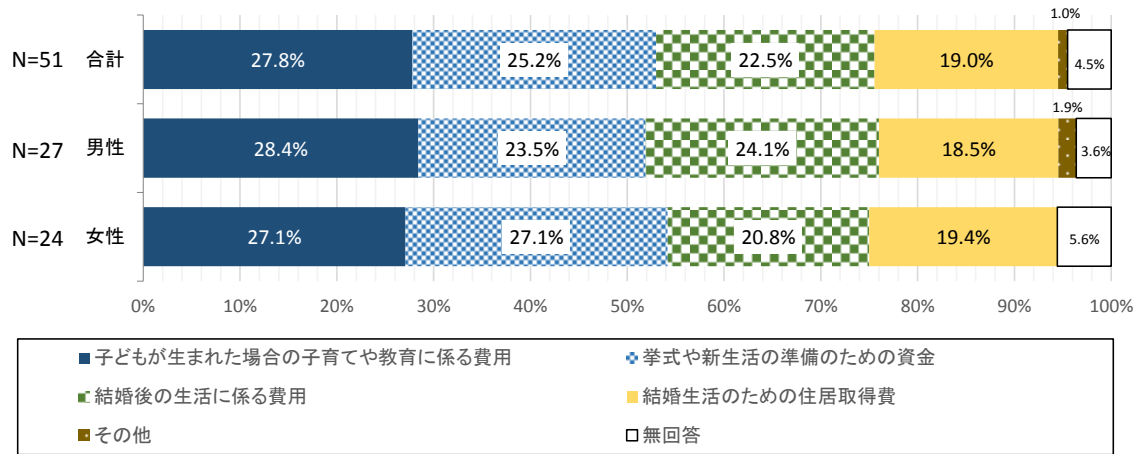
全体では、「適当な相手にめぐり合わない」が 48.6%と最も高く、次いで「自由や気楽さを失いたくない」と「異性とうまくつきあえない」、「結婚資金が足りない・家庭を持つ経済力がない」が同率で 20.8%となっている。

男女間では差異が大きいのは、「異性とうまくつきあえない」で男性 28.2%に対し女性 15.5%と男性が 12.7 ポイント上回っている。一方で「適当な相手にめぐり合わない」では男性 41.7%に対し女性 53.5%と女性が 11.8 ポイント上回る結果となった。

④ (4) 結婚や結婚後の生活に係る費用に対する負担感

< (3) で「結婚資金が足りない・家を持つ経済力がない」と回答した者（未婚者） >

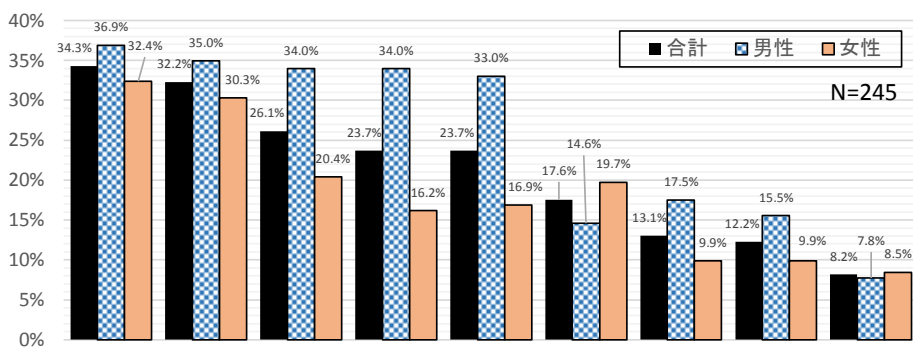
<全体のウエイト>



全体のウエイトを比較した場合、1位（3ポイント）、2位（2ポイント）、3位（1ポイント）として試算したところ、「子どもが生まれた場合の子育てや教育に係る費用」が27.8%と最も高くなった。

男女間の差異は「挙式や新生活の準備のための資金」で男性23.5%、女性27.1%と女性が3.6ポイント上回っており、「結婚後の生活に係る費用」では男性24.1%、女性20.8%と男性が3.3ポイント上回る結果となった。

(5) 異性交際の不安 (未婚者のみ)

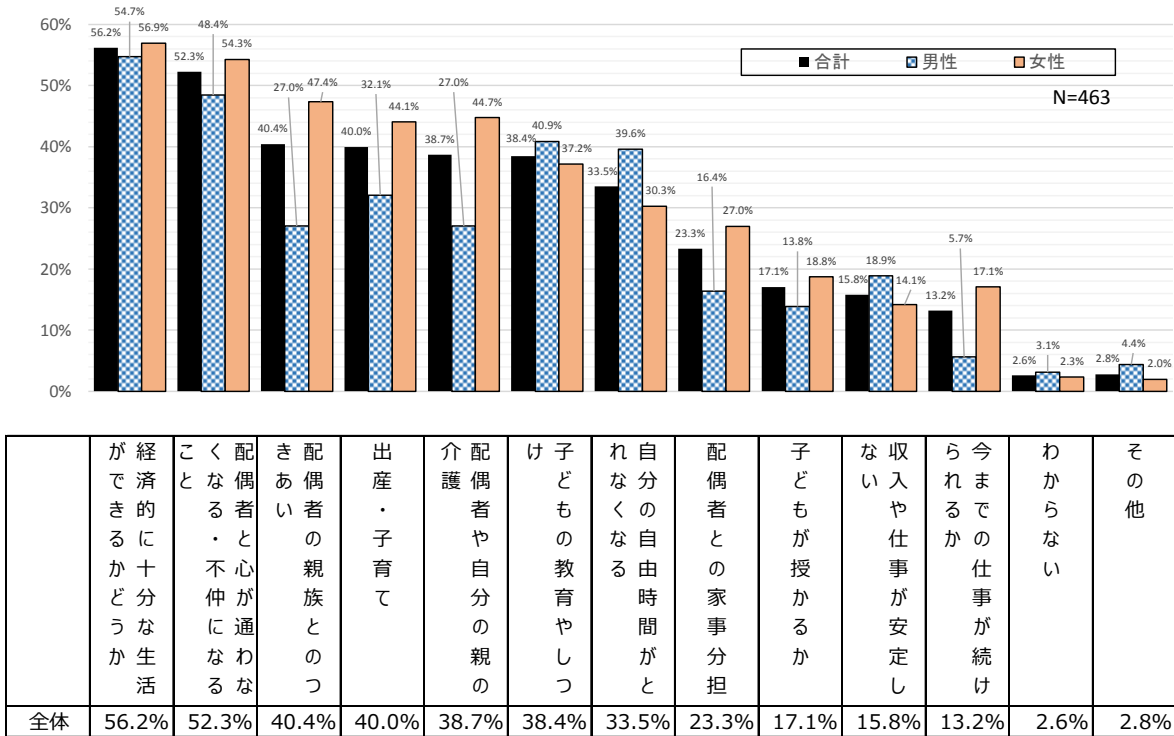


	自分では異性に対して魅力がない	そもそも異性との出会いの場所がわからない	知らない声をかけてよいかかわからない	気になる異性がいなくても、どのように声をかけてよいかかわからない	どうしたら親しい異性と恋人になれるのかわからない	恋愛交際の進め方がわからない	自分か恋愛感情を抱くことが	異性と交際に踏みきれないこ	過去の失恋経験からまた異性に	その他
全体	34.3%	32.2%	26.1%	23.7%	23.7%	17.6%	13.1%	12.2%	8.2%	
前回(H23)	29.9%	27.5%	20.3%	17.2%	16.2%	13.2%	8.3%	8.8%	5.9%	

全体では、「自分は異性に対して魅力がないのではないかと思う」が 34.3%と最も高く、次いで「そもそも異性との出会いの場所がわからない」が 32.2%となった。

男女間で差異の大きいのは、「どうしたら親しい異性と恋人になれるのかわからない」で男性 34.0%に対し女性 16.2%と男性が 17.8 ポイント上回っている。次いで「恋愛交際の進め方がわからない」で男性 33.0%に対し女性 16.9%と男性が 16.1 ポイント、「気になる異性がいなくても、どのように声をかけてよいかかわからない」で男性 34.0%に対し女性 20.4%と男性が 13.6 ポイント高くなった。

⑥ (6) 結婚生活の不安 (複数回答)



全体では、「経済的に十分な生活ができるかどうか」が 56.2%と最も高く、次いで「配偶者と心が通わなくなる・不仲になること」が 52.3%となった。

男女間で差異の大きいのは、「配偶者の親族とのつきあい」で男性 27.0%に対し女性 47.4%と女性が 20.4 ポイント上回っている。また「配偶者や自分の親の介護」で男性 27.0%に対し女性 44.7%と女性が 17.7 ポイント上回り、「出産・子育て」では男性 32.1%に対し女性 44.1%と女性が 12.0 ポイント上回っている。

(7) 結婚支援への要望

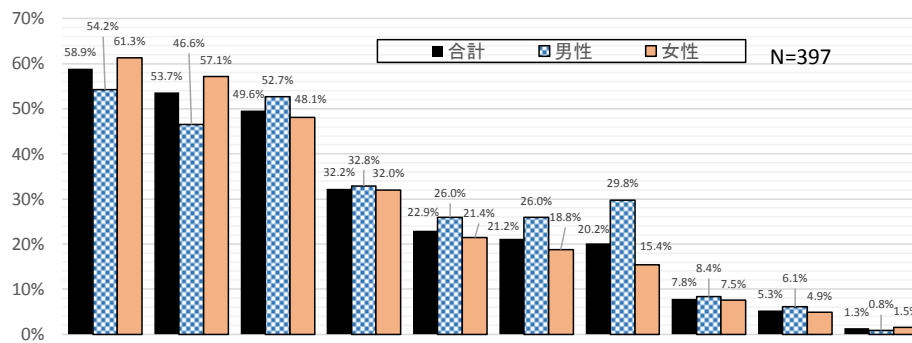
①結婚を支援する施策(事業)を県や市町村が取り組んで欲しい (N=463)

積極的に取り組んで欲しい	32.4% (前回(H23) 32.2%)	} 79.9% (前回(H23) 77.2%)
どちらかといえば取り組んで欲しい	47.5% (前回(H23) 45.0%)	
どちらかといえば取り組むべきではない	8.0% (前回(H23) 9.7%)	
取り組むべきではない	4.5% (前回(H23) 5.8%)	

②結婚を支援する施策(事業)をNPOなどの民間団体が取り組んで欲しい (N=463)

積極的に取り組んで欲しい	32.0% (前回(H23) 28.9%)	} 81.9% (前回(H23) 76.9%)
どちらかといえば取り組んで欲しい	49.9% (前回(H23) 48.0%)	
どちらかといえば取り組むべきではない	6.5% (前回(H23) 10.3%)	
取り組むべきではない	3.0% (前回(H23) 5.6%)	

(8) 結婚支援策で必要な取組み



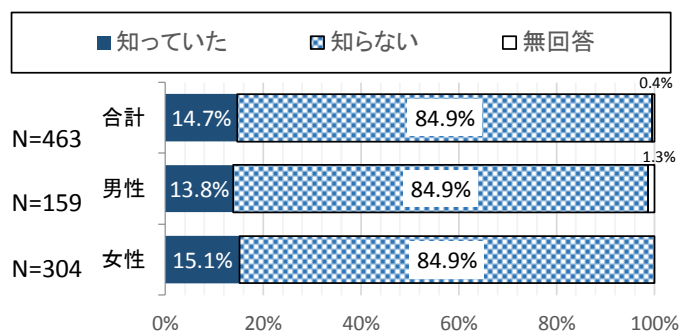
取組み	全体	前回(H23)
出会いの機会創出(パーティー、レクリエーションなど)	58.9%	60.6%
結婚費用や結婚後の住まい・暮らしへの支援	53.7%	47.0%
雇用や収入の安定化のための施策	49.6%	56.5%
社会全体で若者の自立や結婚を支援する意識づくり	32.2%	29.7%
出会いや結婚に必要な情報の提供	22.9%	24.7%
(公)各地域での個別相談会や相談会	21.2%	17.1%
設置	20.2%	13.1%
お見合いを設定する支援員等の	7.8%	6.9%
ン、講座(交際術、ファッショ	5.3%	4.5%
親や地域の住民を対象とする若い	1.3%	2.1%
その他	1.3%	2.1%

全体では、「出会いの機会の創出(パーティー、レクリエーションなど)」が58.9%と最も高く、次いで「結婚費用や結婚後の住まい・暮らしへの支援」53.7%、「雇用や収入の安定化のための施策」49.6%の順となっている。

㊦ (9) とやまマリッジサポートセンターについて

① とやまマリッジサポートセンターの認知について (N=463)

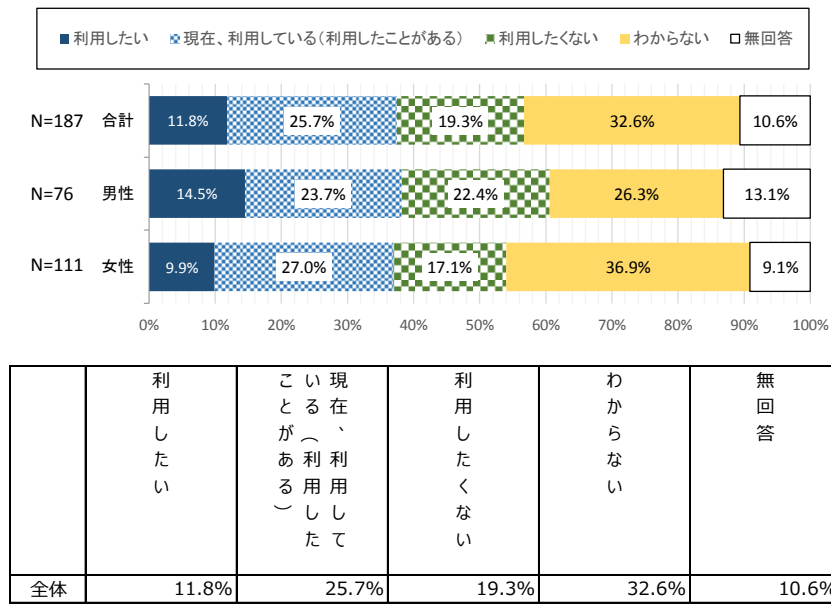
知っていた 14.7%
知らない 84.9%



	知っていた	知らない	無回答
全体	14.7%	84.9%	0.4%

②とやまマリッジサポートセンターの利用意識について

＜（１）で「結婚したい、すぐにでも結婚したい、2～3年以内に結婚したい、いずれは結婚したい」と回答された方のみ＞

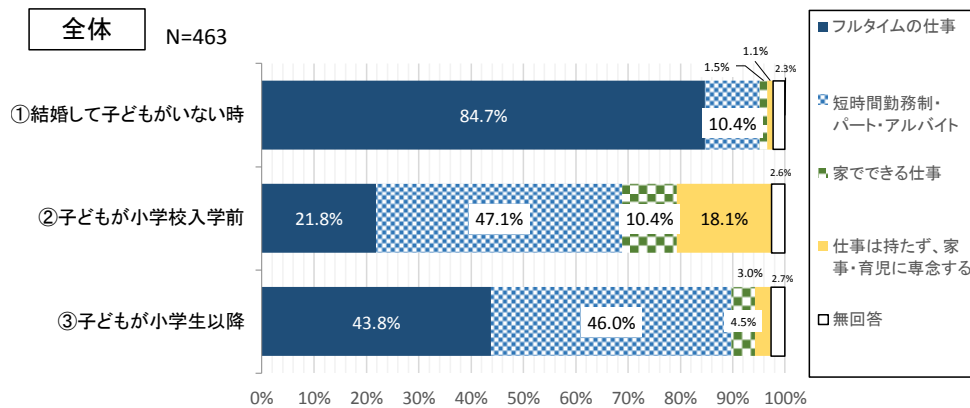


全体では、「わからない」が32.6%と最も高く、次いで「現在、利用している（利用したことがある）」で25.7%となった。

「現在、利用している（利用したことがある）」と「利用したい」を合わせると約37.4%の方がとやまマリッジサポートセンターの利用意識があることが読み取れる。

⑩（１０）女性の働き方について

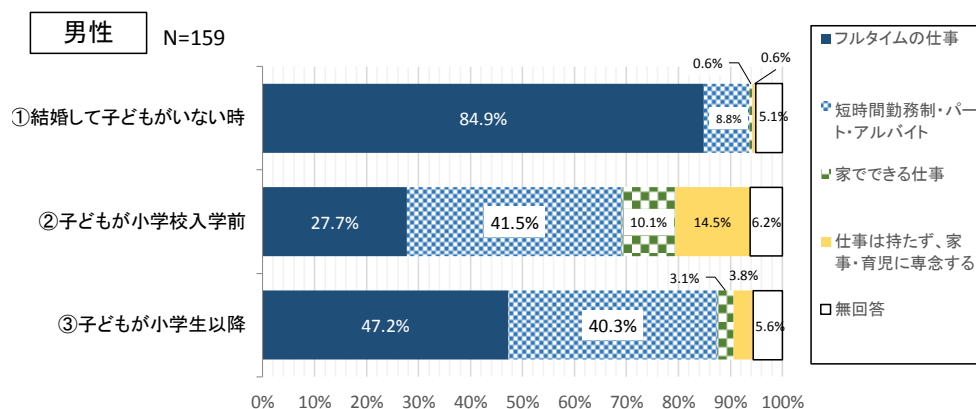
＜全体＞



	のフルタイムの仕事	イト制短時間勤務制	仕事でできる	す育ず仕る児、事に家は専事持念・た	無回答
①	84.7%	10.4%	1.5%	1.1%	2.3%
②	21.8%	47.1%	10.4%	18.1%	2.6%
③	43.8%	46.0%	4.5%	3.0%	2.7%

全体では、結婚して子どもがいない時が「フルタイムの仕事」で84.7%と大半を占める結果となった。子どもが小学生前後の時では「短時間勤務制・パート・アルバイト」が約半数を占める結果となった。

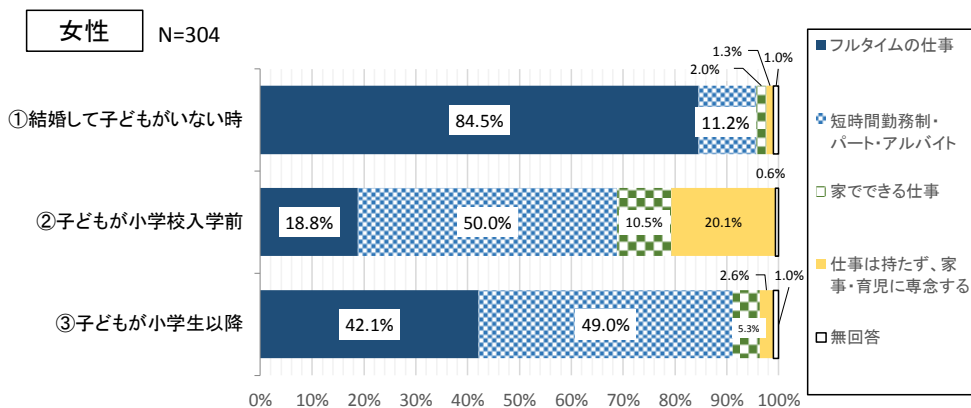
<男性>



	フルタイムの仕事	短時間勤務制・パート・アルバイト	家でできる仕事	仕事は持たず、家事・育児に専念する	無回答
①	84.9%	8.8%	0.6%	0.6%	5.1%
②	27.7%	41.5%	10.1%	14.5%	6.2%
③	47.2%	40.3%	3.1%	3.8%	5.6%

男性では、結婚して子どもがいない時が「フルタイムの仕事」で84.9%と大半を占める結果となった。子どもが小学生前後の時では「短時間勤務制・パート・アルバイト」が約4割となった。

<女性>

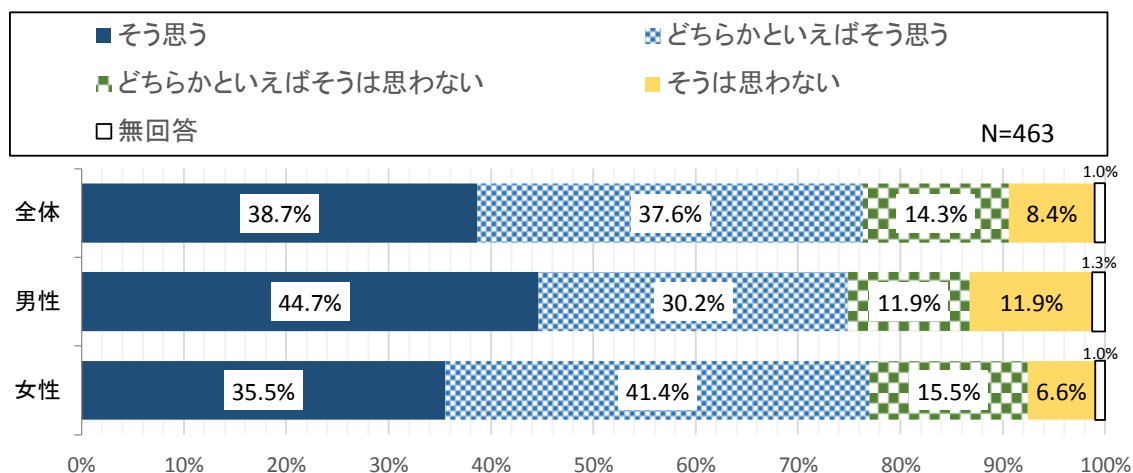


	フルタイムの仕事	短時間勤務制・パート・アルバイト	家でできる仕事	仕事は持たず、家事・育児に専念する	無回答
①	84.5%	11.2%	2.0%	1.3%	1.0%
②	18.8%	50.0%	10.5%	20.1%	0.6%
③	42.1%	49.0%	5.3%	2.6%	1.0%

女性では、結婚して子どもがいない時が「フルタイムの仕事」で84.5%と大半を占める結果となった。子どもが小学生前後の時では「短時間勤務制・パート・アルバイト」が約半数を占める結果となった。

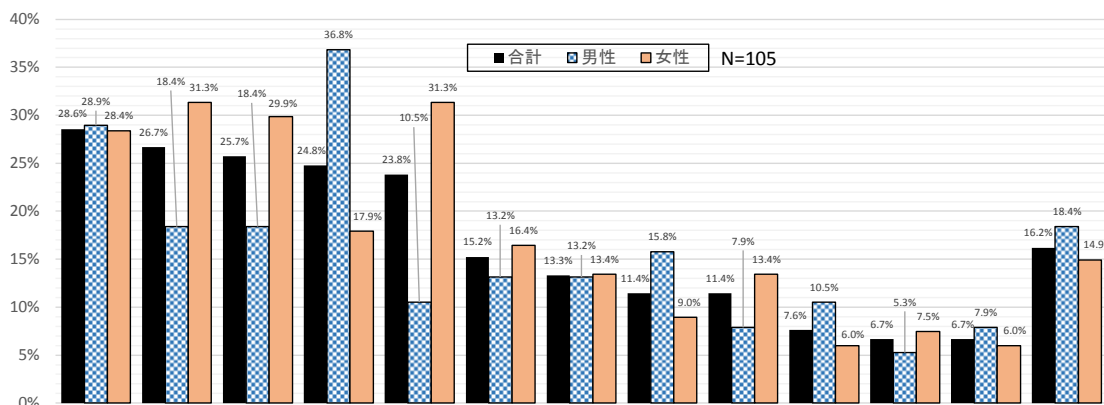
(11) 国や自治体が、現在の少子化対策を拡充すれば「子どもが欲しい」「もう1人子どもが欲しい」という気持ちになるか

そう思う	38.7% (前回(H23)45.6%)	} 肯定的 76.3% (前回(H23)77.6%)
どちらかといえばそう思う	37.6% (前回(H23)32.0%)	
どちらかといえばそうは思わない	14.3% (前回(H23)12.0%)	
そうは思わない	8.4% (前回(H23)10.3%)	



今回	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない	無回答
全体	38.7%	37.6%	14.3%	8.4%	1.0%
前回(H23)	45.6%	32.0%	12.0%	10.3%	0.1%

(11-2) 少子化対策を拡充しても、「子どもが欲しい」と思わない理由
 <(11)で「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」と回答した者>



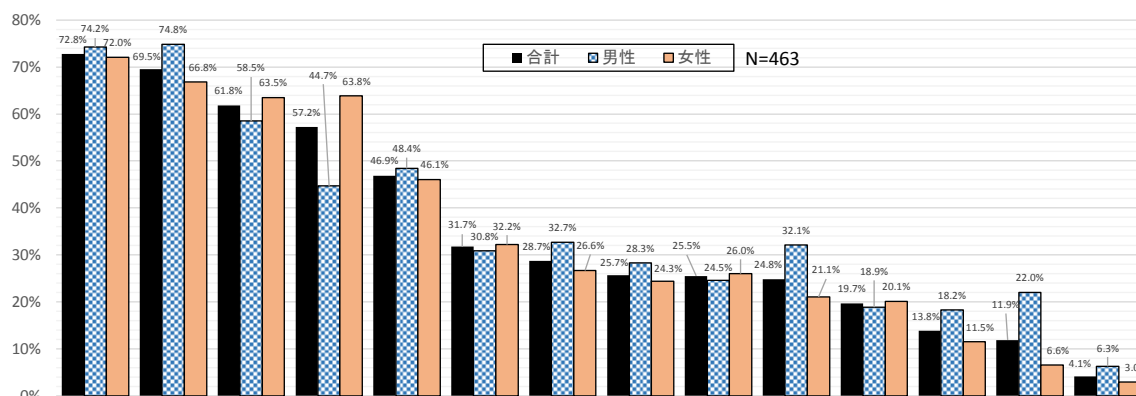
	自分の趣味や時間を大切にしたい	今の子供の数で十分だと思うから	日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから	子どもの数は少子化対策とは関係ないから	年齢、体力的、医学的な事情があるから	親となる自信が持てないから	子育てへの苦抵抗感が強いから	夫婦の生活を大切にしたいから	夫や家族の協力が得られず、育児が大変だから	子どもを持つことが煩わしいから	人間関係が複雑になるから	子育てが子どもを欲しくはない	エネルギーが足りないから	その他
全体	28.6%	26.7%	25.7%	24.8%	23.8%	15.2%	13.3%	11.4%	11.4%	7.6%	6.7%	6.7%	16.2%	
前回(H23)	22.6%	31.3%	30.4%	21.7%	23.5%	14.8%	16.5%	11.3%	6.1%	7.0%	7.0%	10.4%	18.3%	

全体では、「自分の趣味や時間を大切にしたいと思うから」が28.6%と最も高く、次いで「今の子供の数で十分だと思うから」が26.7%と続いた。

男女間で差異の大きいのは、「子どもの数は少子化対策とは関係ないから」で男性36.8%に対し女性17.9%と男性が18.9ポイント上回っている。

一方「年齢、体力的、医学的な事情があるから」で男性10.5%に対し女性31.3%と女性が20.8ポイント、次いで「今の子供の数で十分だと思うから」で男性18.4%に対し女性31.3%と女性が12.9ポイント、「日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから」では男性18.4%に対し女性29.9%と女性が11.5ポイント上回る結果となった。

(12) 行政が、結婚・出産・少子化対策に取り組む上で、どのような施策を拡充すべきと考えるか



保育料・教育費等の支援、軽減	72.8%	児童手当の拡充や子育て減税など	69.5%	育児休業の取得促進や長時間労働の是正など	61.8%	保育園の整備	57.2%	保育サービスや放課後児童クラブなど子どもの預け場所、居場所の整備	46.9%	子どもへの医療費にかかると経済的負担への支援	31.7%	乳幼児連れでも外出しやすい街づくり	28.7%	小児の救急医療体制の整備	25.7%	子育て支援センターやファミリー充地実	25.5%	不妊や不育症に関する相談の充実	24.8%	多子世帯(子ども3人以上)に着目した子育て支援	21.1%	子育て不安解消のための相談窓口の充実	19.7%	親を対象にした子育て講座の充	13.8%	三世帯同居や近居を進めるための施策の推進	11.9%	その他	4.1%
----------------	-------	-----------------	-------	----------------------	-------	--------	-------	----------------------------------	-------	------------------------	-------	-------------------	-------	--------------	-------	--------------------	-------	-----------------	-------	-------------------------	-------	--------------------	-------	----------------	-------	----------------------	-------	-----	------

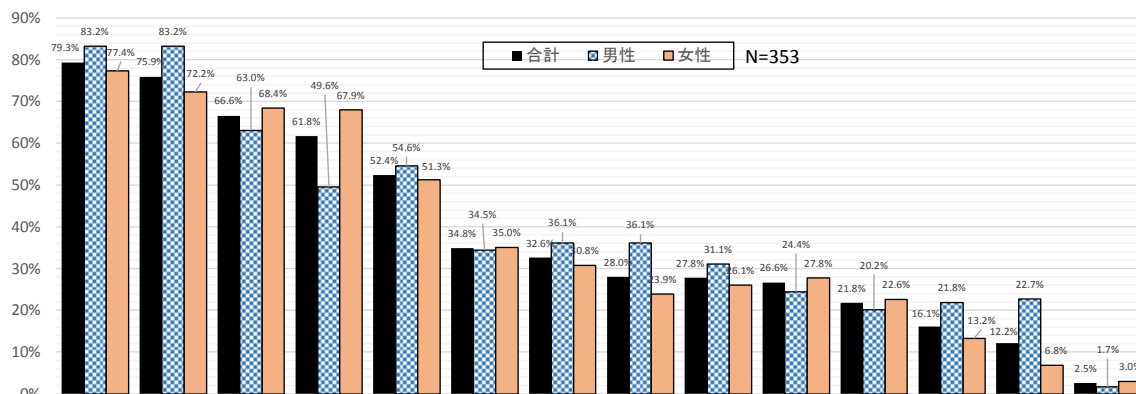
全体では、「保育料・教育費等の支援、軽減」72.8%を筆頭に、「児童手当の拡充や子育て減税などの経済的支援」69.5%、「育児休業の取得促進や長時間労働の是正など仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し」61.8%の順となっている。

男女間で差異が大きいのは、「三世帯同居や近居を進めるための施策の推進」男性 22.0%に対し女性 6.6%と男性が 15.4 ポイント高い。「多子世帯(子ども3人以上)に着目した子育て支援」男性 32.1%に対して女性 21.1%と男性が 11.0 ポイント上回っている。

一方、女性が男性を大きく上回ったのは「保育サービスや放課後児童クラブなど子どもの預け場所、居場所の整備」で、男性 44.7%に対し女性 63.8%と 19.1 ポイント上回っている。

(12-2) 行政が、結婚・出産・少子化対策に取り組む上で、どのような施策を拡充すべきと考えるか

<(11)で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者>



	保育料・教育費等の支援、軽減	児童手当の拡充や子育て減税などの経済的支援	育児休業の取得促進や長時間労働の是正など仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し	育児サービスの整備	子どもへの医療費にかかると経済的負担への支援	乳幼児連れでも外出しやすい街づくり	小児の救急医療体制の整備	多子世帯(子ども3人以上)に着目した子育て支援	子育て支援センターやファミリーサポートセンターなど地域の充実	不妊や不育症に関する相談窓口の充実	子育て不安解消のための相談窓口の実	親を対象にした子育て講座の充実	三世帯同居や近居を進めるための施策の推進	その他
全体	79.3%	75.9%	66.6%	61.8%	52.4%	34.8%	32.6%	28.0%	27.8%	26.6%	21.8%	16.1%	12.2%	2.5%
前回(H23)	-	70.0%	73.3%	69.3%	50.5%	28.3%	36.3%	21.0%	28.0%	25.0%	22.3%	13.0%	7.8%	5.5%

全体では、「保育料・教育費等の支援、軽減」79.3%を筆頭に、「児童手当の拡充や子育て減税などの経済的支援」75.9%、「育児休業の取得促進や長時間労働の是正など仕事と生活の調和がとれる働き方の見直し」66.6%の順となっている。

男女間で差異が大きいのは、「三世帯同居や近居を進めるための施策の推進」男性 22.7%に対し女性 6.8%と男性が 15.9 ポイント高い。「多子世帯(子ども3人以上)に着目した子育て支援」男性 36.1%に対して女性 23.9%と男性が 12.2 ポイント上回っている。

一方、女性が男性を大きく上回ったのは「保育サービスや放課後児童クラブなど子どもの預け場所、居場所の整備」で、男性 49.6%に対し女性 67.9%と 18.3 ポイント上回っている。